

知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(3) —知的障害特殊学級での通知表改善とそれに基づく教育活動の分析—

岐阜大学教育学部障害児教育講座 坂本 裕
熊本市立健軍小学校 西 正道

I はじめに

知的障害児教育における通知表の新しい活用として、坂本 裕・西 正道(2002)で特殊学級を、坂本 裕 (2003)で養護学校を対象として、その形式・内容と使用法、更に、授業評価との連動性について検討を加えた。その結果、1コマの授業における「個への対応」まではその有効性を確認することができた。

本稿では、坂本 裕・西 正道(2002)に引き続き、知的障害特殊学級において、今回の通知表の新しい活用法が年間をとおしての教育活動にどのように効果を与えているのかの検討する。そして、新しい通知表の年間をとおした教育活動レベルでの「個への対応」への有効性を明らかにしたい。

II 検討事例の概要

A児(男) S小学校知的障害特殊学級3年生に在籍する自閉的傾向を伴う中度知的障害児。1年生2学期途中、A市外の知的障害特殊学級から転校してきていた。転校の際、保護者は多くの特殊学級を見学され、A児の教育に相応しいと思われたS小学校を選択し、転居先もS小学校の近くを探されるほど、入級時から保護者の担任に対する信頼度は高かった。しかし、S小学校校区に適切な住居をみつけることができなかったため、姉は別の小学校に在籍し、A児は母親が車で送迎している。

諸検査の結果としては、全訂版田研・田中ビネー知能検査(CA8歳9か月)にて、MA2歳7か月、IQ30であった。絵画語い発達検査(CA8歳4か月)ではVA2歳6か月であった。新版S-M社会生活能力検査(CA8歳4か月)

ではSA3歳8か月、SQ44、身辺自立3歳3か月、移動6歳6か月、作業3歳3か月、意志交換2歳10か月、集団参加3歳1か月、自己統制5歳であった。

全訂版田研・田中ビネー知能検査、絵画語い発達検査の結果に比べ、新版S-M社会生活能力検査の結果の方が高く、生活経験による伸びもみられる。語い年齢の低さや意志交換の項目が落ち込んでいる等、コミュニケーションに難しさがみられる。しかし、慣れた場面での自己統制や移動に関しては伸びがみられた。

学級構成としては、知的障害特殊学級には2年生のD児(ダウン症)と対象児のA児が在籍しており、担任が2名配当されている。日課は、特殊学級での日常生活の指導や生活単元学習等の集団活動を中心に、ことばやかず等の個別での活動、さらに、交流学級での体育や音楽等の活動といった3つの学習形態から構成されている。

学校の生活では、転校直後の1年生2学期は着席行動も困難であったが、2年生になると知的障害特殊学級での活動には落ち着いて取り組むことができるようになった。しかし、交流学級での体育の授業等の特殊学級以外の新しい集団の中で落ちついて活動することは難しく、大きな声を出し、その場を離れようとする様子が見られる。

III 方法

1. 手続き

プレ期、支援期、ポスト期の3期に区分した。

(1) プレ期

x年4月のA児の行動の状況を踏まえ、通知表を活用した保護者面談や交流学級担任との検

Table 1 検討事例児のx年度1学期の個別指導計画

項目	目標	具体的な指導の手だて
◆基本的な生活習慣の向上 ・食事 ・着替え ・排泄 等	○前後を間違えずに、体操服や標準服への着替えが一人ができる。	・間違えた時は、その場で「反対」と声かけする。
◆基本的な行動 ・自分の仕事 ・指示理解 ・してはいけないことの理解等	○落ち葉や草を、一輪車を使って、堆肥置き場に持って行くことができる。	・手順が分かるまでは、担任も一緒に運搬をする。 ・手順が理解できたら、担任が運搬のはじめと終わりの場所に分かれて活動する。 ・運ぶ距離を徐々に伸ばしていく。
◆対人関係 ・集団参加 ・意志、要求の伝達 ・集団への適応 等	○体育の時間、3年生の集団の中で、活動の流れに合わせて活動することができる。	・3年生の子どもたちが各自の個人目標を共通理解することで、Aくんに対する接し方を理解する。 ・3年生がAくんの目標を理解することで、集団に入りやすい雰囲気を作る。
◆体力の向上	○運動会で、止まらずに80mを走ることができる。 ○楽しく泳ぐことができる。	・走る距離に慣れるために、1時間目「朝の会」の終了後、毎日運動場を一緒に走る。 ・水に浮く感覚を体感できるようにペットボルのフロートを体につける。
◆ことばやかずへの興味	○ひらがなを読むことができる。 ○10までの具体物を数えることができる。	・本人が興味を示す、パソコンの学習ソフトを活用する。 ・数字のカードとブロックのマッチングを行う。
◆造形・音楽への関心	○ボルトとナットの組み立て、分解を行う。	・ゲーム感覚でできるような場面を工夫する。
◆交流活動	○新しい場所で、落ち着いて活動することができる。	・色々な場所を体験できるような単元を組み、実際に出かけることにより経験を積む。
◆その他	○見通しを持って学校生活を送ることができる。	・時間割をできるだけ带状にする。 ・時間割がわかりやすくなるように、写真カードなどを使う。

討会をとおして、1年間の支援の基本的枠組みを検討した。

(2) 支援期

第Ⅰ期(x年度1学期)、第Ⅱ期(x年度2学期)、第Ⅲ期(x年度3学期)毎の区切りをもって、各期当初に保護者面談と交流学級担任との検討会をもち、A児の通知表への記載をとおしてA児への支援内容・方法等を検討し、設定した。そして、日々の授業実践を展開した。また、各期末に通知表に基づいた保護者面談や交流学級担任との検討会をもち、その学期のA児の生活状況をとおして、支援内容・方法等の反省を行った。

(3) ポスト期

x+1年4月の状況を観察する。

2. 分析方法

x年度のA児の個別指導計画と通知表、並びに、日々の学習記録の記載から交流教育に関する事項を抜粋し、検討を加えた。

IV 結果

1. プレ期(x年4月)

(1) A児の交流教育(体育)での様子

A児は3年生の集団を意識しながらも自分から進んで列に並んだりすることが難しく、教師がそばについていないと、さっと、走り出してしまう状態だった。しかし、表情は柔らかく、集団から一定の距離を保つと、集団の方をちらちらとみるような素振りもみられた。

(2) A児への支援の基本的枠組み

前年度までの記録や本年度の行動観察、諸検査の結果を基に個別指導計画案が作成された。その個別指導計画案が家庭訪問時に保護者に提示され、「1学期の目標」と「具体的な指導の手だて」について懇談の場がもたれた。保護者からは、目標の項目についての家庭での様子や実態等の情報が提供された。この懇談において、x年度はA児が得意とする活動を中心に毎日の学校生活がより興味のもてるものになるようにすることに加え、交流学級でも落ち着いて活動ができるように支援していくことが確認された。また、交流学級担任とも話し合いがもた

Table 2 検討事例児のx年度1学期の通知表

項 目	目 標	活動の様子
◆基本的な生活習慣の向上 ・食事 ・着替え ・排泄 等	○前後を間違えずに、体操服や標準服への着替えが一人でできる。	○間違えずに着替えていることが多くなりました。
◆基本的な行動 ・自分の仕事 ・指示理解 ・してはいけないことの理解 等	○落ち葉や草を、一輪車を使って、堆肥置き場に持っていくことができる。	○運搬の仕事が一人でできるようになりました。何度も繰り返すことで、一輪車置き場、堆肥置き場の位置関係、仕事の内容を理解し、言葉かけだけで、一人で運ぶことができるようになりました。
◆対人関係 ・集団参加 ・意志、要求の伝達 ・集団への適応 等	○体育の時間、3年生の集団の中で、落ち着いて活動することができる。	○3年生の集団の中に、落ち着いた表情で入ることができるようになりました。しかし、活動内容によっては、様子を見たりしていました。運動会の練習では、フォークダンスも子どもたちだけで一緒に踊れるようになりました。
◆体力の向上	○運動会で、止まらずに80mを走ることができる。 ○楽しく泳ぐことができる。	○足を気にしている様子がありましたが、一人で止まらずに走り続けることができました。 ○水に浮く感覚を楽しみ、笑顔で活動できました。徐々に顔をつけることもいやがらなくなりました。
◆ことばやかずへの興味	○ひらがなを読むことができる。 ○10までの具体物を数えることができる。	○パソコンあいうえおでの学習には意欲的に取り組み、ひらがなを素早く探してキーを押すことができました。 ○10までの数字を読むことはできましたが、ブロックを数えると1対1の対応がまだ難しかったようです。
◆造形・音楽への関心	○ボルトとナットの組み立て、分解を行う。	○はじめの頃はうまくいかず、いらだつ様子も見られましたが、徐々に上達し、スムーズに行えるようになりました。
◆交流活動	○新しい場所で、落ち着いて活動することができる。	○近隣の障害児学級や公共施設など校外学習で、いろいろな場所に行きましたが、パニックも起こさず、その場で活動することができました。
◆その他	○見通しを持って学校生活を送ることができる。	○落ち着いて次の活動を見通して行動することができました。自分で判断して教室移動などができるようになりました。

れ、Table 1のような1学期の個別指導計画が設定された。

2. 支援第I期(x年5月～7月:1学期)

(1) 目標とその支援方法

① 目標:週2時間の体育の時間に、3年生の集団の中で活動する。

② 支援方法:支援第I期の具体的な支援方法として次の3点が確認された。「通常学級2クラス(担任2名)の体育の学習に、A児と特殊学級担任と一緒に参加する」、「特殊学級担任が主指導者となり、通常学級担任2名が副指導者としてA児も含めた児童集団の支援に当たる」、「児童が各自の個人目標を共通理解することで、交流学級の児童のA児に対する理解を図り、A児が交流学級に入りやすい雰囲気を作る」

(2) 支援経過

授業を始めるに当たり、体育の時間における一人一人の児童の目標を設け、その中でA児の目標「整列をしている中に自分から入ることができる」を、交流学級の児童にも伝えられた。そして、その児童らが「どうすればA児と一緒に並べるようになるか」ということを話し合う場を設けた。その中で、特殊学級担任も助言を行い、A児と一緒にやろうという声かけは近くの人が行う(みんなで一斉には行わない。みんなで近付いていくとA児が怖がる)、A児が列に入ろうとしたら、黙って入れる場所をつくる(その列のA児が入った場所の後ろの人達が黙ってさがりスペースを作る)ということが決められた。そして、A児への教師からの支援は副指導者である交流学級担任の2名がA児の表情を見ながら声かけをしたり、一緒に活動し

Table 3 検討事例児のx年度2学期の個別指導計画

項目	目標	具体的な指導の手だて
◆基本的な生活習慣の向上 ・食事 ・着替え ・排泄 等	○廊下の拭き掃除を一人ですることが できる。	・スタートとゴールの目印を作っておく。
◆基本的な行動 ・自分の仕事 ・指示理解 ・してはいけないことの理解 等	○落ち葉や草を、一輪車を使って、 堆肥置き場に一人で捨てること ができる。 ○ラミネーターを一人で使って作業 することができる	・できるだけ繰り返し経験できるようにする。 ・かごを使用し、材料と製品の置く場所をわかり やすくする。
◆対人関係 ・集団参加 ・意志、要求の伝達 ・集団への適応 等	○音楽の時間、3年生の集団の中で、 落ち着いて活動することができる。	・本人の目標を3年生全員で共通理解すること により、一緒に活動しやすい雰囲気を作る。
◆体力の向上	○運動場5周を休まずに走ることが できる。	・毎朝伴走して運動場を走ることで、休まず走る リズムをつかむ。 ・3年生の合同体育に参加する。
◆ことばやかずへの興味	○ひらがなの濁音を読むこと ができる。 ○5までの具体物を正確に数える ことができる	・カードを使って学習する。 ・ブロックを使い、指さしながら一緒に数える。
◆造形・音楽への関心	○音楽劇に参加することができる。 ○切ったり貼ったりといった簡単な 造形活動を楽しむことができる。	・3年生の音楽に担任と一緒に参加する。 ・O小と合同で造形活動をすることで、造形活動 に取り組む回数を多くする。
◆交流活動	○O小のお友達と一緒に落ち着いて 活動することができる。	・遠足や月の壁飾りづくりなど、一緒に活動でき る時間を多くの設定する。
◆その他	○Dくんと協力して活動することが できる。	・生活単元学習で学級としての取り組む単元を設 定する。

たりするようにし、決してA児に無理せず、安心感をもたせるようにすることに重点が置かれた。

こうした交流学級の児童及び担任の支援を受け、5月には徐々に列の中に自分から入ることができるようになり、体育の活動そのものにも自分から参加し、交流学級の集団の中で取り組むような場面が増えた。

6月に行われた3週間の運動会の練習では、3年生の集団の中に自然に入っていくことができるようになった。さらに、フォークダンスでも、教師は離れた場所で見守るだけで、交流学級の児童と一緒に踊ることができるようになった。

(3) 第I期の概評

Table 2 に示したように、週時程をできる限り毎日同じ流れにすることや、写真を使う等して取り組む活動の理解をやすくしたり、交流学級の児童にA児への適切なかわり方を考えてもらったりすることで、安定した生活を送る

姿が多くみられるようになり、交流学級での体育にも無理なく参加できるようになった。

3. 支援第II期 (x年9月～12月：2学期)

第I期末に行った保護者や交流学級担任との話し合いを基に、特殊学級担任がTable 3 に示したような個別指導計画が作成された。この案を元に交流学級担任と話し合いがもたれ、第I期は週2時間の体育だけだった3年生との交流学習を週2時間の音楽にも参加するようになった。保護者とは第II期当初の個別面談は実施されず、連絡帳と一緒に家庭に届け、記載内容に希望等がある場合は記入して担任に返すようにされた。それに対して、保護者からの特段の意見はなく、1度のやりとりで保護者の了解が得られた。

(1) 目標とその支援方法

① 目標：週2時間の体育と週2時間の音楽の時間は、3年生の集団の中で一緒に活動する。

② 支援方法：支援第II期の具体的な支援方法として次の4点が確認された。「通常学級2

Table 4 検討事例児のx年度第2学期の通知表

項 目	目 標	活動の様子
◆基本的な生活習慣の向上 ・食事 ・着替え ・排泄 等	○廊下の拭き掃除を一人ですることができる。	○掃除の音楽がなると、自分から雑巾を持ち、廊下を拭きはじめるようになりました。雑巾洗いはまだ難しいようです。
◆基本的な行動 ・自分の仕事 ・指示理解 ・してはいけないことの理解 等	○落ち葉や草を、一輪車を使って、堆肥置き場に一人で捨てることができる。 ○ラミネーターを一人で使って作業することができる	○外での一輪車を使っての運搬の作業は、準備から活動・片づけまで見通しを持ち、一人で落ち着いて活動できるようになりました。 ○ラミネーターを使って押し花作品を作る作業は、一人でできるようになりました。
◆対人関係 ・集団参加 ・意志、要求の伝達 ・集団への適応 等	○音楽の時間、3年生の集団の中で、落ち着いて活動することができる。	○音楽会では、3年生と一緒に音楽劇「エルマーの冒険」を演じました。みんなの動きに合わせて演じることが出来、気に入ったフレーズは口ずさむことも出来るようになりました。
◆体力の向上	○運動場5周を休まずに走ることができる。	○3年生との体育の準備運動では、みんなの流れによって一緒に運動場を走ることが出来ました。伴走すれば、楽に5周以上走ることが出来るようになりました。コンビニまで一緒に走っていくことが出来ました。
◆ことばやかずへの興味	○ひらがなの濁音を読むことができる。 ○5までの具体物を正確に数えることができる。	○ガ行とダ行はなんとか覚えることができました。 ○3までは、1つ1つ指さしながら数えることが出来ました。4と5は数え間違っていました。
◆造形・音楽への関心	○音楽劇等に参加することができる。 ○切ったり貼ったりといった簡単な造形活動を楽しむことができる	○音楽劇の練習や3年生の音楽の授業でも、みんなの歌声の中、参加できました。 ○毎月の壁飾りをみんなで一緒に制作することができました。
◆交流活動	○O小のお友達と一緒に落ち着いて活動することができる。	○O小での交流活動も、初めはすぐ学校に帰りがたりしていましたが、慣れてくると、お気に入りの友だちの名前を口ずさんだりすることが出来るようになりました。
◆その他	○Dくんと協力して活動することができる。	○Dくんに名前呼びかけたりするなど相手を意識した行動が見られるようになりました。

クラス（担任2名）の体育と音楽の学習に、「A児と特殊学級担任と一緒に参加する」、「体育は特殊学級担任が主指導者となり、通常学級担任2名が副指導者としてA児も含めた児童全員の支援に当たる」、「音楽は交流学級担任1名が主指導者となり、特殊学級担任と通常学級担任1名が副指導者としてA児も含めた児童集団の支援に当たる」、「児童が各自の個人目標を共通理解することで、交流学級の児童のA児に対する理解を図り、A児が交流学級に入りやすい雰囲気を作る」

(2) 支援経過

第I期と同様に本人の目標を交流学級の児童みんなで共通に理解することで、一緒に活動しやすい雰囲気が作られた。

体育は持久走の練習が中心となったが、準備

運動から参加し、みんなの流れによって一緒に運動場を5周以上走ることができた。また、K町のコンビニエンスストアまで、交流学級の児童と一緒に走り抜くこともできた。

音楽は3年生と一緒に音楽劇「エルマーの冒険」やハンドベルに取り組んだ。最初は体育館の離れた場所から練習の様子を眺めることから始め、無理をせず、徐々に近づいていくようになされた。交流学級の児童もA児が受け入れやすいかわり方を身につけたようで、A児も比較的スムーズに活動に参加できるようになっていった。A児は全体の動きに合わせて演じることができ、気に入ったフレーズは口ずさむことも出来るようになった。そして、音楽会当日は、特殊学級での発表と交流学級での発表との2回出演することができた。

Table 5 検討事例児のx年度3学期の個別指導計画

項目	目標	具体的な指導の手立て
◆基本的生活習慣の向上 ・食事 ・着替え ・排泄 等	○休み時間に外で遊んだ後、チャイムの合図で教室に帰ってくる ことができる。 ○一人で、帰りの用意をすることが できる。	・チャイムの合図で行動できないときは、声かけ を行う。 ・できる活動に絞り、手順を決め、毎日繰り返す。
◆基本的な行動 ・自分の仕事 ・指示理解 ・してはいけないこと の理解等	○教室の花鉢に水を適量やること ができる。	・水かけの時間は、イニオと自分で数える声を手が かりにする。
◆対人関係 ・集団参加 ・意志、要求の伝達 ・集団への適応 等	○3年生の友達と一緒に人形劇をす ることができる。	・できる活動を新しいメンバーで取り組むよう にする。
◆体力の向上	○T小学校まで歩いて往復するこ とができる。 ○3年生と一緒に持久走やサッカー をすることができる。	・T小学校との交流授業をできるだけ多く計画し、 T小学校まで歩いていくようにする。 ・3年生の合同体育に参加する。
◆ことばやかずへの興味	○身近な生活用品の名前を覚えるこ とができる。 ○水かけの時間を数えること ができる。	・表がイラスト、裏がひらがなで名前の書かれた 生活カードを使う。 ・数字と量との関係を理解できるようにイニオと数 えながら水かけする。
◆造形・音楽への関心	○人形劇で使用する歌に親しむこ とができる。	・劇の練習の際、テープの歌に合わせてみんな で歌う。
◆交流活動	○T小学校のたんぼぼ学級の教室に 入ることができる。	・一緒に行う活動を組み、T小で活動する機会を 多く設定する。
◆その他		

また、第Ⅱ期からO小学校特殊学級との交流活動も行われた。第1回目はO小学校への訪問が行われたが、落ち着いた仕草がみられ、S小学校にとっても帰りたような様子もみられた。しかし、遠足や月の壁飾りづくり等の一緒に活動できる時間を週に1回程度設ける中で、お気に入りの友だちの名前を口ずさんだり、笑顔で活動に参加したりする姿がみられるようになった。

(3) 第Ⅱ期の概評

Table 4 に示したように、第Ⅱ期は第Ⅰ期にできるようになった活動を確実にしたり、広げたりすることが主願とされた。体育の授業への参加だけだった3年生との交流授業が音楽にも広げられたが、自らのかわりはまだ少ないながらも、落ち着いて多くの人と活動できる等、着実にできることが広がっていく姿が認められた。

4. 支援第Ⅲ期 (x+1年1月～3月：3学期)

第Ⅲ期も同様に、第Ⅱ期末の話し合いを基に、

Table 5 に示したような個別指導計画が作成された。

支援第Ⅲ期は、A児が次年度4月から転校することに備え、個別指導計画を基に、教育課程・年間計画の再検討がなされ、転校先のT学校での合同学習が多く取り入れられた。

(1) 目標とその支援方法

① 目標1：来年度の転校先であるT小学校の特殊学級の教室に入ることができる。

目標2：週2時間の体育の時間は、3年生の集団の中で、一緒に活動することができる。

② 支援方法：支援第Ⅲ期に具体的な支援方法として次の4点が確認された。「S小学校からT小学校への片道約3kmの移動を、A児がT小学校での活動を予測しやすいように歩いていくようにする」、「通常学級2クラス(担任2名)の体育の学習に、A児と特殊学級担任と一緒に参加する」、「体育は特殊学級担任が主指導者となり、通常学級担任2名が副指導者としてA児も含めた児童全員の支援に当たる」、「児童が各自の個人目標を共通理解することで、交流学級

Table 6 検討事例児のx年度3学期の通知表

項目	目標	活動の様子
◆基本的な生活習慣の向上 ・食事 ・着替え ・排泄 等	○休み時間に外で遊んだ後、チャイムの合図で教室に帰ることができる。 ○一人で、帰りの用意をすることができる。	○そうじの始まり等、友達の行動を見て、自分で教室に戻ってくることができました。 ○帰る前の着替え等、自分一人で行えるようになり、服の前後の間違いも少なくなりました。
◆基本的な行動 ・自分の仕事 ・指示理解 ・してはいけないことの理解等	○教室の花鉢に水を適量やることができる。	○水差しで、イチニサンと数えながら水をやるできるようになりました。初めの頃水をやりすぎてあふれると、自分からぞうきんを取りに行って拭く姿が見られました。
◆対人関係 ・集団参加 ・意志、要求の伝達 ・集団への適応 等	○3年生の友達と一緒に人形劇をすることができる。	○イベント大会のステージ発表で、Iくんと3年生の6人の友達で人形劇をしました。落ち着いて練習にも参加し、体育館でも楽しく発表できました。
◆体力の向上	○T小学校まで歩いて往復することができる。 ○3年生と一緒に持久走やサッカーをすることができる。	○片道45分の道のりでしたが、元気に歩き通すことができました。 ○みんなの流れにのって、校庭を走ることができました。サッカーの練習では、ゆっくりしたボールならば楽しんでパスをすることができました。
◆ことばやかずへの興味	○身近な生活用品の名前を覚えることができる。 ○水かけの時間を数えることができる。	○約30枚のカードを新しく覚えてしまいました。 ○花への水やりで、数字を数えることで、適量を判断することができるようになりました。
◆造形・音楽への関心	○人形劇で使用する歌に親しむことができる。	○人形劇「おおきなかぶ」のテープに入っている歌に興味を示し、時々「大きなかぶだよ抜けません・・・」と口ずさんでいました。
◆交流活動	○T小学校のたんぼぼ学級の教室に入ることができる。	○O小やK小との交流に加えて、来年度から通うT小学校へ交流に行きました。最初は、教室に入りたがらず、外の遊具で遊びましたが、段々教室にも慣れてきました。Iちゃんとも、お互いを意識した行動が見られ、来年度が楽しみです。
◆その他		

の児童のA児に対する理解を図り、A児が交流学級に入りやすい雰囲気を作る」

(2) 支援経過

T小学校を初めて訪問した時、なかなか特殊学級の教室に入ることができなかった。「おかえり」「おかえり」と言いながら教師の腕を引っ張って帰ろうとした。そこで、T小学校での活動をA児が好きなブランコ等の外遊びから始め、徐々に慣れることができるような工夫がなされた。初日はS小学校の児童とA児が大好きなブランコで遊んで終えた。2日目はT小学校の特殊学級の児童と一緒にブランコや遊具で遊ぶようにしたところ、並んでブランコをこいだりする姿もみられた。そして、3日目から6日目(最終回)の交流時には、自分から教室に入り、机に座ったり、平均台やミニトランポリンで遊んだりをすることができた。

一方、交流学級での体育の時間には2学期に引き続き、全体の流れにのって自分から参加し、準備体操を行い、持久走では校庭を走ることができた。さらに、サッカーの練習では、ゆっくりころがるボールであれば、交流学級の児童と一緒にパスをすることが楽しんでできるようになった。

(3) 第Ⅲ期の概括

第Ⅲ学期はTable 6に示した3学期の指導目標及び活動の様子のように、2学期までのA児の育ちをベースにT小学校への転校に備え、T小学校との交流を意識した活動が用意された。この中で、場所や集団が変わっても落ち着いて活動する姿をみせてくれるようになった。

5. ポスト期(x+1年4月)

T小学校知的障害特殊学級への転校初日からスムーズに教室に入り、活動に参加することが

できた。そして、1学期の間は特殊学級の教室と先生に慣れることを第一とされ、殆どの時間を特殊学級で過ごすようにされたが、交流学級での授業にもスムーズに参加でき、放課後のクラブ活動にも加わることができるようになった。

IV. まとめ

本検討事例は、通知表を活用した個別指導計画が作成され、その計画を基に知的障害特殊学級担任と交流学級担任や保護者の中で検討を加えられた事例であった。その中で、A児の今できることを大切にしながら、学校生活を作り上げることで三者の合意がなされた。そして、どのような手だてが必要なのか、そのためにはどのような学校生活にしていけばよいのか等が検討された。特に、集団での活動場面においては、A児への支援よりも、交流学級の児童への支援が効果的であると判断がなされた。つまり、集団参加が難しいA児の状態を「わがまま」や「我慢が足りない」ととらえず、A児と周囲の者との相互作用の結果ととらえるようにしたのである。こうした教師間、さらに、保護者との検討により、A児は落ち着いて集団での活動にも自分から参加できるようになり、運動会や音楽会、他校の特殊学級との交流にも教師の少ない支援で参加することが可能となった。

以上のような検討事例の検討結果から、本稿で提唱した通知表の新しい使用法は、小学校知的障害特殊学級における「個への対応」に有効であることが明らかになった。

文献

坂本 裕・西 正道(2002)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(1): 知的障害特殊学級での通知表改善とそれに基づく授業の分析. 岐阜大学教育学部研究報告 (教育実践研究), 4, 119-127.

坂本 裕 (2003)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(2): 知的障害養護学校での通知表改善の試み. 岐阜大学教育学部研究報告 (教育実践研究), 5, 183-190.